

脳神経外科専門クリニックが地域に必要な 基幹病院と遜色ない画像診断が可能な体制に

—「サカイ脳神経外科」の開業をお聞かせください。

酒井 開業前は、静岡県内にある浜松医科大学の関連病院で約29年にわたり脳神経外科医として勤務してきました。そのなかで、専門的な治療が遅れて、本来、救えたはずの脳梗塞や脳腫瘍などの患者さんを救えなかったというケースが増えていました。

十数年前までは地域の基幹病院でも頭痛やめまいなどの患者さんを診ていたのですが、昨今は、紹介状がない初診の患者さんは受け入れなくなりました。それは制度的なこともありますし、脳神経外科医が足りないという理由もあります。ところが浜松市内には脳神経外科疾患を専門に扱うクリニックがほとんどありません。そのため、たとえば、頭痛などの患者さんは、一般のクリニックを受診することになります。鎮痛薬を処方されますが、服用しても痛みは取れない。どんどん状態が悪くなり、結局、救急車で基幹病院に運ばれても、くも膜下出血などで亡くなってしまいます。

「この地域には適切な初期診断を行う脳神経外科専門のクリニックが必要だ」という想いが強くなり、2016年12月に「サカイ脳神経外科」を開業しました。

—脳神経外科において適切な診断を行うためには医療機器の充実が不可欠ですね。

酒井 約29年のキャリアを持っていても、患者さんを診て問題ないだろうと思いながら念のためMRI検査を行うと、脳腫瘍などが見つかることは多々あります。高度な画像診断機器がなければ脳神経外科疾患の初期診断の質は担保できません。



広く清潔感のある待合室

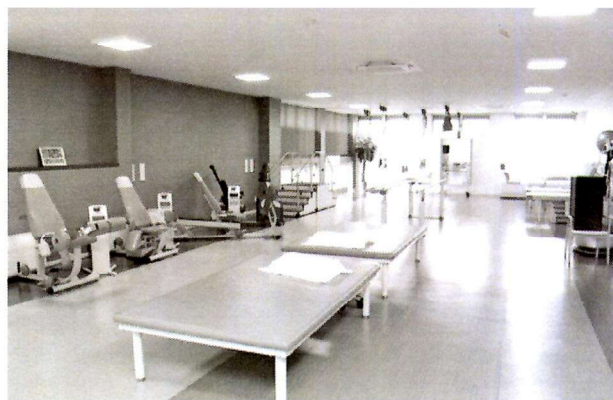
当院では、私が勤務医時代にMRIの研究を行っていたこともあり、その時に交流があった放射線技師やメーカーから開業をバックアップしていただき、当初から人材も確保できましたし、1.5テスラ超電導MRIや最新のCTも入れることができました。それにより、当院では基幹病院と遜色のない画像診断が可能です。しかも基幹病院では緊急性がない限り、検査は翌日以降になりますが、当院では来院した当日に検査を行い、その日に治療方針を立てることができます。

—開業場所についてはどのように選んだのですか。

酒井 1つ目は、人口密度が高いことです。そのほうが患者さんにたくさん来ていただけたと考えました。2つ目は、地域の基幹病院である「浜松医科大学附属病院」「聖隷浜松病院」「浜松医療センター」の場所を線で結んだトライアングルのほぼ中心に位置することです。どの病院からも患者さんをお互いに紹介しやすい場所になっています。3つ目は、当院の目の前がバス停で1日100本のバスが運行していることです。患者さんの利便性が高い場所だと思っています。



1.5テスラ超電導MRI



リハビリテーションルーム